会　議　録

会議名称	令和５年度第１回蕨市健康づくり推進会議
日　　時	令和５年６月１日（木）13:30～14:40
会　　場	蕨市保健センター２階　健康教育室
出 席 者 （敬称略）	【委員】 神庭純子（会長）、小山祐康（副会長）、羽根田高洋、渡邊圭一、 平野宏和、小宮文、岡村増美、山田和美、橋本佐和子、 植田富美子、伊藤祐介、加山千恵子、佐原勝治
	【事務局】 根津賢治（健康福祉部長）、安治直尚（保健センター所長）、 細野亜紀子（保健センター保健指導係長）、津田美穂（保健センター庶務係長）、 南智子（保健センター技術主査）、清水佳代（保健センター保健師）、 影澤由美子（保健センター保健師）、 片平宣秀（株式会社社会構想研究所）
配布資料	・令和５年度第１回蕨市健康づくり推進会議次第 ・蕨市健康づくり推進会議委員名簿 ・資料１　令和４年度事業報告 ・わらび健康アップ計画情報紙 ・資料２　令和５年度事業計画 ・資料３　その他新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる取組について ・資料４　次期わらび健康アップ計画の策定に向けて ・資料５　スマートウエルネスシティ構想に関するリーフレット ・資料６－１　第３次わらび健康アップ計画策定に関するアンケート　15 歳以上の方向け ・資料６－２　第３次わらび健康アップ計画策定に関するアンケート　３歳～14 歳の方の保護者の方向け ・資料７　第３次わらび健康アップ計画における計画期間について

	・資料８　第３次わらび健康アップ計画策定スケジュール ・健康づくり推進会議設置要綱
会議次第	（１）令和４年度事業報告について （２）令和５年度事業計画について （３）第３次わらび健康アップ計画について （４）その他
会議の内容 及び 主な発言	１　開会 事務局：資料の確認。委員の自己紹介。事務局紹介。 会　長：ここ数年は書面開催でご協力いただいていたが、久しぶりに対面での開催が可能となったことをうれしく思う。本年度は、第３次わらび健康アップ計画の策定を予定している。本会議で皆様との検討の機会をいただくことが、蕨市の健康づくりの推進につながるものと考えている。それぞれのお立場から活発なご意見をいただければと思う。 ２　議題 （１）令和４年度事業報告について 事務局：令和４年度の事業報告について説明。 （２）令和５年度事業計画について 事務局：令和５年度の事業計画について説明。 会　長：最近の新型コロナウイルス感染症への対応について委員の方から何かありますか。 委　員：新型コロナについては、皆さんの関心のあるところは第９波ではないかと思う。第８波のピークは昨年 11 月から 12 月くらいだったが、1 月くらいに最低となった後、わずかにはずっと増えてきている。新型コロナが第５類に分類された５月８日以降から増加傾向。重症者が増えている訳ではないが、基礎疾患のある方には気をつけていただくという方針に変わりはない。 委　員：普段臨床をやっている立場としては、明らかに増えていると感じている。第５類になってマスクをしない人

	が増えたのが一番の原因である。コロナも増えているが、この時期になってもインフルエンザがまだ見られる。３年間くらいインフルエンザがあまりなかったので、抗体を持っていない人が多いことが一番の原因であるが、今までマスクで防がれていたものが、マスクをしない人が増えたので、新型コロナだけでなく、他の感染症も増えているのが現状である。 委　員：ワクチン接種との関連では、今までに感染したことがある人が再感染する場合と全く新規に感染する場合の割合はどのようになっているのか。 委　員：区別をするのはなかなか難しい。経験的には２回目の感染は非常に少ない。90％以上は初回の感染である。私のところでは幸い重症化した方はいない。 委　員：再感染の人の区別は技術的に非常に難しい。ＰＣＲ検査では１度かかると３か月くらい陽性の方がいる。期間がたって陽性になったからといって、それが絶対に再感染だと区別する方法は今のところはない。 委　員：ということは、今後もワクチンの接種は必要なのか。 委　員：その通りだが、ここから先は個人的な生活習慣があるのでなかなか難しい。もちろん感染や重症化を防ぐためには有効だと思っている。できるだけお勧めはしている。 （３）第３次わらび健康アップ計画について 事務局：第３次計画の策定、スマートウエルネスシティ、アンケート調査、計画の期間について説明。 委　員：アンケート調査を７月 14 日まで実施し、それをもとに計画を策定するというイメージでよろしいか。 事務局：アンケート調査結果も評価対象になっているので、そちらが集まってから計画案を作成することになる。 委　員：３歳～14 歳のお子さんの保護者の方を対象とした調査では､問 18 でイライラやストレスを感じていることがありますかという設問があるが、今子どもがゲームや

	スマートフォンを夜遅くまで見ているという話をよく聞く。私はイライラの原因が自分の思い通りにならないことにあるのではないかと思うので、ゲームやスマートフォンの使用に関する設問を入れることはできないか。 事務局：その問題は健やかメディアとの関連もあり重要だと思うので、ご意見のような設問を追加する方向で検討したい。 委　員：第２次計画から第３次計画に移行するにあたって、第２次計画を実施してみて、追加する項目や改善点などがあると思うが、比較も含めその点のポイントがあれば教えていただきたい。 事務局：第２次計画の詳しい検証はこれから実施していくことになるが、現時点で第３次計画で大きく変えていこうという点については、スマートウエルネスシティというコンセプトを盛り込んでいくということが、大きな改善点となっている。ポピュレーションアプローチによって、特定の条件にあてはまる方だけではなく、全ての方にアプローチしていこうという取組となっているので、第２次計画では比較的積極的な市民の方を支援するという取組が多かったが、第３次計画では関心の低い方も含め全ての方を対象にできる取組を盛り込んでいければと考えている。 会　長：ポピュレーションアプローチによって、誰一人取り残さないというＳＤＧｓの考え方に基づいたまちづくりを視野に入れての方針を体現できる計画にしたいというご説明だったと思う。今回のアンケート調査の結果は第２次計画の評価の指標となるとともに、第３次計画のベースラインになるということでよろしいか。 事務局：お見込の通りである。 会　長：先ほどの質問は、アンケート調査ではどの項目が継続で、新しく加えたものがあるかという趣旨だったと思うがいかがか。

	事務局：細かな修正等は多いが、大きく変わったところとしては、やはりスマートウエルネスシティに関する設問が盛り込まれたところである。スマートウエルネスシティの認知状況や、外出や地域活動への参加に関する設問を盛り込んでいる。 事務局：ほとんどの項目が前回も聞いているものを網羅している。変更点としては、例えば、15 歳以上の方の調査では､問 11 の望ましい 1 日の塩分摂取量の設問のところで、基準が変更になったので、設問の文言も変更している。文言の変更がほとんどである。 会　長：評価の継続性という観点からも、項目に関しては基本的には継続して、内容を更新しているということだと思う。 委　員：アンケート調査の年齢は、3 歳から 14 歳の方の保護者の方、15 歳から 80 歳の方とかなり幅広い年代の方に渡っている。集約するには非常に幅が広いのではないかと思うが、これで良いのか。15 歳の方にがん検診について聞くのはどうかとも思うが、分かれていたり、これは書かなくて良いというのがあるのか。 事務局：ご意見のように非常に幅広い年代を対象としたアンケート調査となっているが、そのためにクロス集計によって年代ごとに分けて、それぞれの年代がどのような回答をしているのかという集計・分析をする。全ての設問について年代ごとの調査結果を見ていくことで、年代ごとの傾向や回答内容などを細かく分析する。若者については若者の調査結果を、高齢者の方については高齢者の方の調査結果を見ていくことができるので、それで細かな分析等を行っていく予定である。今回のアンケート調査は無作為抽出なので、完全に把握することは難しいが、年代ごとに大体の傾向を見ていくことは可能なので、それで分析して計画に活かしていくようにしたい。 委　員：1,500 人の無作為抽出は良いが、年代が 15 歳以上とい

	うことなので、無作為の段階で各年代をうまく捉えられるかということがある。また、ある年代だけ回答が少なく、そこだけデータが少ないということも考えられるが、その心配はないのか。 事務局：無作為抽出については、地域の人口の分布に基づいて、年齢の比率から今回対象としている 2,000 人を大体同じ割合で抽出する予定である。 会　長：トータル 2,000 人で、地域ごとの年齢層を考慮して、各年代それぞれに一定の依頼ができるように発送するということでよろしいか。それぞれの回収率は回答がないとわからないので、場合によっては回収率によって偏りがあるかもしれないということだと思う。 委　員：この調査は以前にも何回かやったことがあると思う。以前民生委員をしていたときに、私の地域で 60 部来たことがある。一つの家に３部来ていたりして、48～49 部ほどしか回収できなかった。いろいろな経験を踏まえて、今回は 1,500 部で良いということか。以前は民生委員が 100 人ほどいて 1 人あたり 20 部ということだった。今回は今までの回収率などいろいろなことを考えた上でやっているのだろうと思う。良い結果が出て、健康推進のために役立てていければと思う。 事務局：人数は前回と同様だが、できるだけ同じ世帯で何人も該当することがないように抽出する予定である。 委　員：対象者は 1,500 人と 500 人ということだが、回収率はどのくらいを想定しているのか。回収率や回収数を考慮したときに集計として妥当なのか、第３次計画にきちんと反映されるのか疑問に思ったのだがいかがか。 事務局：妥当な配布数については特に決まりがある訳ではないので、前回調査の配布数を継続する形となっている。前回の回収率は、15 歳以上の方は 31.2%、15 歳未満の方は 50.2%、全体で 36.0%だった。この計画の調査として特別低い、信憑性がないということはないと思うので、このような形で実施することにした。

	会　長：国や県の計画との整合性を考慮しながら計画を策定するが、できるだけ市民の声や現状を把握した上で、計画に反映させようという趣旨での調査ということだと思う。回収率が30～40％というのが高いか低いかは一概には言えないが、各年齢層の実情が反映された計画にできればと思う。 委　員：15歳以上の回収率は31.2％ということだが、この中で65歳以上の回収率は何％くらいだったのか。 事務局：年齢ごとの回収率についてはこの場では回答できないが、回答者の中に占める割合は、60歳代が16.0％、70歳代が22.6％、80歳以上が16.2％となっており、高齢者の方のほうが回収率は高い傾向にある。 委　員：回収率を上げる方法は何かあるのか。 事務局：市の調査では、調査期間の途中に調査協力のお礼を兼ねて、回答していただけたかどうかお尋ねする督促的なはがきを出す例がある。 委　員：自分にこのアンケートが届いた時に、回答するかどうか考えてしまうので、何とか出してもらえるようにするアイデアが必要ではないか。例えば回答していただいた方には抽選で何か差し上げるなど、回収率を上げるアイデアがあればと思う。 委　員：調査票のタイトルが堅い印象がある。このタイトルを見たら出すかどうか考えてしまうと思うので、もう少し書いてみようと思わせるタイトルにした方が回収率も上がるのではないか。 会　長：私は大学生を指導しているが、最近は手書きのアンケートよりもスマートフォンのアンケートのほうが回収率が上がるようである。郵送だけでなく、ＱＲコードをつけてそちらからアクセスできるようにすれば、若い世代の回収率が上がるのではないか。 委　員：回収率を上げたいのであれば、無作為に送るより町会などの組織に送ったほうが良いのではないか。コバトン健康マイレージについても、町会の定例会で話した

	ところ、それまで知らなかった人も、ポイントが貯まって商品がもらえることを知って関心を持ったようだった。いろいろな情報はいろいろなところに送ったほうが良いのではないか。 委　員：このような調査では、回収率を上げるために特定の層に送るとデータにバイアスがかかるので、無作為抽出は守らなければならない。 事務局：様々な意見をいただき感謝したい。今回の計画では誰一人取り残さないということと、健康づくりのモチベーションの一つとして顔の見える関係性も大事であると考えている。そのような分析については、キーパーソンに個別にお話を聞かせていただき、アンケート調査については全体に対して無作為、匿名で実施することに意義があるものと考えているので、目的によって使い分けていきたい。今は学校でもアンケート調査はウェブで行うことが多くなっているので、使いたい気持ちはあるし、庁内の会議でもそのような意見があったが、今回の調査については、システムの構築等が間に合わないので、次回計画をつくるときには、今回いただいた意見を引き継ぐようにしたい。回収率については、昨年の市の意識調査では45.8%だった。障害や介護の分野でも調査を行うので、同じ人、同じ世帯に行かないようにシステム上で配慮している。高齢者の調査では民生委員が直接配布して直接回収しており、顔の見える関係性を活かした回収率の高い方法だが、一方で負担も大きいので、今回実施する調査については返信用封筒で返信してもらい、回収率は４割前後かそれより少し低いものと見込んでいる。督促はがきを適宜送るなど、少しでも皆様の意見を反映できるように工夫したい。 （４）その他 事務局：今後のスケジュールについて説明。 ３　閉会